

A4 用紙

30mm

20pt, 太字

機関誌「非破壊検査」の論文

執筆要領

5mm

14pt, 太字

著者 1* 著者 2* 著者 3**
著者 4** 著者 5** 著者 6***

* 大学 (東京都 区 1-1-1)
** 所属 2 (住所 2)
*** 所属 3 (住所 3)

9pt, 太字

5mm

キーワード：放射線，超音波，表面探傷，応力，ひずみ

5mm

English Title How to Write a Paper

5mm

14pt, 太字

Author1*, Author2*, Author3**, . . .

* affiliation1
** affiliation2
*** affiliation3

9pt, 太字

5mm

Abstract

9pt

The Society carries out academic investigation and research domestically and internationally on non-destructive testing, non-destructive inspection, and non-destructive evaluation in general. Technical papers and commentaries appear in "Non-destructive Inspection", the journal of JSNDI. This article presents how to write an original paper submitted to the Journal of JSNDI.

5mm

9pt, 太字

Key Words : Radiograph, Ultrasonics, Surface Methods, Stress, Strain

11 or 12 pt, 太字

2 行

9pt

1. 一般的注意

1.1 用紙，字数

9pt, 太字

18mm

ワードプロセッサによる執筆の場合，できるだけ本サンプルに従った形式で原稿を作成するのが望ましい。やむを得ない場合には，用紙は A4 版の白紙を使用し，一行の字数は 26 文字とし，行数は 43 行とする。英語，数字などは半角文字を使用し，半角文字は 2 字で 1 字として扱う。なお，機関誌の刷上がり 1 ページの字数は次のようであることを考慮して，原稿を長さ制限内に収める。刷上がり 1 ページの字数は，タイトルページについては 1,500 字であり，中ページ以降については 2,230 字である。したがって，刷上がり 3 ページの場合の字数は上記を合算した 5,960 字となり，刷上がり 1 ページが増すごとに 2,230 字（中ページ分）増える。

1.2 表題

論文の表題は簡単で内容を明確に表すものとする。内容を特定できないような抽象的，一般的な表現は避ける。必要であれば，副題を付ける。関連ある幾つかの論文を発表する場合は，第 1 報 2 報などとし，各論文ごとにその内容を表す副題を付ける。

18mm

1.3 著者名及び所属機関名

1.3.1 著者名の連記

9pt, 太字

著者名を連記する場合は，少なくとも 1 名は会員であることが必要で，その会員の種別を投稿票に明示する。

1.3.2 所属機関名

所属機関名は論文を投稿したときのものでなく，研究を行ったときのものである。投稿時にそこに属していないときは，所属機関名の後に () 付で現在の所属を記載す

26 文字/行，43 行×2 段組/ページに従ってください。その他の項目についてはおおよそフォーマットが同じになるように調整していただいて結構です。

35mm

る。例えば、東京大学工学部（現在、株式会社）、
The Faculty of Engineering, The University of Tokyo (Present
Address : Co., Ltd.)など。

1.4 英文要旨(論文に限り必要)

論文の目的、方法及び重要な結果などを簡潔、明確に表
すようにし、図表は用いない。背景説明や考察は原則とし
て含まれない。語数は200語以内にすることが望ましい。
対訳和文は不要である。

1.5 本文

記述は簡潔にわかりやすくする。見出しはポイントシ
ステムで作成する。大見出しは1., 2., 3., , 中
見出しは1.1, 1.2, 1.3, 小見出しは1.1.1, 1.
1.2, , のようにする。更に細分する場合には(1),
(2), (3), のようにする。図、写真、表、脚注
及び参考文献の書き方はそれぞれ3. 4. 及び5. 項を参照さ
れたい。

2行

2. 数式

分数式は文中では a/b , $(a+b)/(c+d)$ などのように1
行で書く。数式行は

$$r = \sqrt{x^2 + y^2} \quad (1)$$

のように書き、(1), (2), . . . のように通しの式番号を
付ける。また、文中で式を引用する場合は、「式(1)」の
ように書く。

2行

3. 図、写真、及び表

図、写真、及び表は過不足のないようにする。同一事項
を図、及び表の両方で表すことは避ける。

図(写真も含める)及び表は、適切な場所にそれぞれ Fig.
1, Fig. 2, . . . , Table 1, Table 2, . . . と通し番
号を付けて挿入する。Photo. は用いず、Fig. に統一す
る。本文中の引用も同じとする。図、写真の説明文につい
ては Fig.1 に示すように、それぞれの図、写真の下部に、
表の説明文は Table 1 にしめすように表の上部に「投稿規
則」の『5. 原稿の構成』に示す言語を使用して記入する。

4. 脚注

脚注は文中の右肩に小さく¹⁾, ²⁾, ³⁾のように記し、そ
のページの下段に記載する。

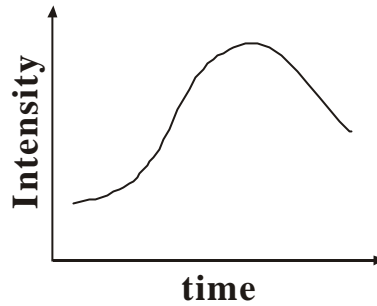


Fig.1 Sample of figure

43行/ページ

Table 1 Densities and velocities

Material	(kg/m ³)	c _L (m/s)	c _T (m/s)
air	1.2	340	
water	1000	1480	
steel	7800	5900	3200
aluminum	2700	6300	3100
glass	2500	5800	3400
rubber	930	1040	27

1~2行

5. 参考文献

参考文献には本文中で引用した順番に通し番号を付け、引
用個所の右肩に小さく¹⁾のように記し、本文の末尾にまと
めて記載する。なお、図、表又は写真などを引用する場合
には、必要に応じて著者自身で著作権所有者の許可を得て
おく。参考文献の記載形式は下記のように行う。なお、著
者名は連名者全員を記載する。詳しくは執筆要領を参照さ
れたい。

11 or 12 pt, 太字

参 考 文 献

- 1) 伊達和博, 島田平八, 広瀬俊幸: 超音波表面波による高
速変形下の J- a 曲線の測定, 非破壊検査,
34(1), pp.14-21, (1985)
- 2) H. P. Rossmannith: Dynamic Stress-Intensity Factor
Determination from Isopachics, Experimental Mecha-
nics, 79(8), pp. 281-285, (1979)
- 3) 尾上守夫: 日本非破壊検査便覧, 日刊工業新聞社, p.434,
(1979)
- 4) T. Y. Thomas: Plastic Flow and Fracture in Solids,
Academic Press, New York, p.100, (1961)
- 5) 山田 一, 山上喜久男: 残留磁気消去方法, 特許 昭
51-115697 (日本), (1976)

9pt